

#編集後記 みんなちがって、みんないい

今回は、少し真面目に一冊の本を紹介させていただきます。

「**生物はなぜ死ぬのか**」(小林武彦著 講談社現代新書)。

生物は全ていろいろな奇跡が重なって誕生し、遺伝子の変化が多様性を生み出し、その多様性があるからこそ、死や絶滅によって進化することができました。

その流れで、偶然にして生まれてきた私たち生物は、全て、「**利他的**」に死ぬのだと説きます。

また進化には優れたコミュニティが欠かせないこと、コミュニケーションがうまくとれる個体ほど選択されて子孫を多く残し繁栄を築いてきたこと等、会社や組織の永続的な運営に置き換えても通じる所があります。

著者は生物学、遺伝子研究の専門家でありながら、現在の日本の深刻な少子高齢化社会にも多く言及し、子育て改革や働き方、シニアが活躍できる社会づくりやAIにまで言及されていて、示唆に富んでいます。

昔は、「**親からもらった命を粗末にするな**」と言ったものですが、生きている意味を説いてくれるこの本を読むと、その言葉の重みを改めて感じます。

会社が生き残るためにも「**多様化**」が一つのキーワードとなることは間違いありません。

事業そのものの新分野展開を支援する、中小企業庁の「**事業再構築補助金**」という制度があります。

ウィズコロナ・ポストコロナ時代の経済環境の変化に対応するために、中小企業等の新分野展開、業態転換、業種転換等の思い切った「多様化」への挑戦を国が支援する補助金です。

第6回公募の受付がこの5月下旬から開始されるようです。(<https://jigyousaikouchiku.go.jp/>)

労務の分野では、国はテレワーク、兼業・副業等、「多様な働き方」を推進しようとしています。考えれば「ハラスメント」なんてのも「多様性」に理解のない強い固定観念がその一因になっているように思います。今こそ、金子みすゞさんの「**みんなちがって、みんないい**」という言葉に噛みしめる時代なのかもしれません。

個性は大切ですが、その上でチームとして仕事をするのなら、個々の視線のずっと先は同じでありたいもの。

社員の職場への愛着心や帰属意識のことを**エンゲージメント**といいますが、5月19日の日経新聞によると人への投資が企業価値を高める時代であることを背景に、**エンゲージメント測定ツール**の導入が大企業を中心に進んでいると報道されました。

会社の目的、仕事の目的を共有する機会を作って、足元を固め、視線を前へ向けることは大切なことですね。

今月、僕をやるせない複雑な気持ちにさせたのは、あるお笑い芸人の訃報でした。

容姿いじりはもちろん、自分から他者をいじって笑いにしたり、毒を吐いて笑いを取ったりする僕の苦手なタイプではなく、ただただ自分が道化をして周りを笑わせる人でした。

その訃報を聞いて思い出したのが、詩人・堀口大学の「月光とピエロ」という詩集。

涙を流した顔を真っ白におしろいで化粧して観衆の笑いを取るピエロの哀愁が心を打ちます。

そして、さだまさしさんの「道化師のソネット」という曲。

自分は子どもに夢を与える仕事だから死んだことは知らせないでくれ、と言い残して

亡くなったピエロの実話を映画化(翔ベイカロスの翼)した際の主題曲です。



持ちきれない程の哀しみを せめて笑顔が救うのなら 僕は道化師(ピエロ)になれるよ
笑ってよ君のために 笑ってよ僕のために きっと誰もが同じ河のほとりを歩いている

「道化師のソネット」より
一部抜粋 作詞さだまさし

ダウンタウンの松本人志さんは、この曲を「生涯で一番聴いているかもしれない曲」と語っていて、「芸人の根本」を歌った歌詞だと話しています。(u_u)

あの松本人志さんも「道化師のソネット」の歌詞に支えられたことがあったのかもしれないね。

多様化が進んでも、人と人が支えあう笑顔いっぱい社会を、次代に繋げていきたいものです。

